

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和3年4月9日
タイトル	「スイゲンゼニタナゴ」産卵母貝調査2021!
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和3年3月27日、福山市環境保全課と盈進中学高等学校の環境科学研究部を中心とした有志により広島県では福山市にだけ生息している「スイゲンゼニタナゴ」の産卵母貝の調査が水土里ネット福山の「芦田川用水」の丸川分水地点で行われました。

「スイゲンゼニタナゴ」は、最も絶滅の心配が高いため『種の保存法』で「国内希少野生動植物種」に指定され許可のないまま「捕獲・飼育・販売・譲渡・放流」することは厳しく禁止されている貴重な魚です。

水土里ネット福山は、福山市で発足した「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会」に水利権者として参加し、調査など様々な活動に協力しています。

毎年調査を行っている芦田川用水の丸川分水地点は下流の水系に分水する施設で、平成7年度に施工された用水路の改修では、環境との調和に配慮して自然護岸とともにスイゲンゼニタナゴを守るため川底に川砂を入れる整備をしており芦田川用水は疏水百選にも選ばれています。

調査のため上流の分流堰を止水し、下流へ分水する水門を開けて水位を下げた丸川分水は、自然護岸として整備された岩が露わになりました。



盈進中学・高校の生徒たちは、ユニホームである胴長に着替えて準備万端です。貝の感触を確かめるため薄手の肘までの長さの手袋をはめ調査しました。中には素手で調査をする生徒もいました。福山大学生命工学部海洋生物化学科の学生や協議会のメンバー、福山市環境保全課からも胴長を履いて参加されました。

護岸に植えてある桜も咲き始め、晴天に恵まれポカポカ陽気中には半袖の生徒もいました。

調査チームは、水門に近い下流から丸川分水へ入り横一列に並んで一斉に上流に向けて調査を開始です。這いつくばって手で池の底を浚いながら貝を探していきます。貝を見つけると大きな声で貝の名前を言うと先生が確認され、位置を地図に記載し毎年の貝の分布を比較します。

今年は全体的に貝が少なく特に調査を始めた下流部分からなかなか貝を見つけることができず、生徒たちにも疲労の様子が見えていましたが、一人、二人と貝を見つけると今度は自分が見つけると元気が出てきました。中流あたりで貝が多く見つかる勢いがでて、一気に上流まで調査を進めました。

上流まで貝を探したら今度は魚を網ですくって採取しました。採取した貝も魚も種類別に調査しました。

今年も残念ながらスイゲンゼニタナゴは1匹もおらず、二枚貝は採取されたものの産卵母貝であるマツカサガイやイシガイはあまり見つかりませんでした。確認した貝や魚は元の位置に戻し調査は終了しました。

平成30年豪雨の後、芦田川やその支川、農業用水路などで水生生物が減少しているようです。原因は分かりませんが、少しずつでも増えてほしいです。

盈進高校も福山大学も泥の中を這いつくばって調査する事は他ではないとお聞きしました。盈進高校の先生から調査に参加した生徒が卒業して大人になり「丸川分水の調査が一番しんどかった。」と話されるそうで、辛い調査ですが一番の思い出になっているそうです。また卒業生が調査に参加しておられ、久しぶりの泥だらけの調査を楽しんでおられるようでした。



調査が終わると管理者が水門を閉め、いつもの丸川分水へ戻りました。

管理者が子どもの頃は水がきれいで、近所の方はここを「プール」と呼んで、泳いだり、カニを捕まえたりして遊んでおられたそうです。

水土里ネット福山は、ふるさとの生きた財産である「スイゲンゼニタナゴ」が将来にわたってこの芦田川水系に健全かつ安定的に生息できるよう、水環境の保全と安定した農業用水の取水配水に努めるとともに農業用水の果たす社会的役割の重要性を発信し、21世紀土地改良区創造運動を展開してまいります。